



Title	ヒューマンボディデザインの実験 : 人・街・心・身体・エロス
Author(s)	滝口, 洋子
Citation	デザイン理論. 2004, 44, p. 166-167
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/52758">https://doi.org/10.18910/52758</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# ヒューマンボディデザインの実験 — 人・街・心・身体・エロス — An Experiment of Human Body Design 展覧会報告

滝口洋子／京都市立芸術大学

人体に直接関わる表現であるファッション・メイクアップ・ボディメイキング等を「ヒューマンボディデザイン」と定義し、装う人とその時代、空間との関係を再考するため実験的空間を創りました。人が装い、集まってそれぞれの心と身体で受けとめた情報を街（ステージ）に再発信します。ヒューマンボディも街も、永遠に満たされることのないイマジネーショナルな欲望（エロス）を原動力に変化成長を繰り返かえます。— 展覧会案内より —

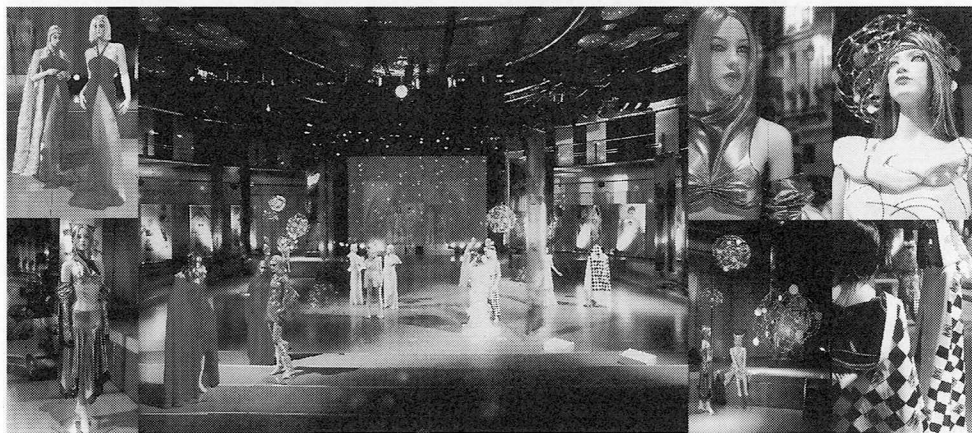
この展覧会の前段階として、意匠学会第43回大会での研究発表『ヒューマンボディデザインについて—ファッション・メイクアップ・ボディメイキング—』がありました。発表内容は、着る人と着られる服との関係、また人が様々な困難を伴いながらも理想のモデルに近づくために化粧をし、衣服を選び、身体に加工を加え続ける意味を考察しました。それは表層の変化ではなく、ヒューマンボディの変化、つまり人間の変化であると考えられ

ます。ファッションデザインを単に衣服のデザインにとらえず、広く人間の身体（ヒューマンボディ）のデザインにとらえ、デザイナーたちの身体感、セクシュアリティについての考え方の違いから現代のファッションを振り返ってみるというものでした。

この展覧会は研究発表の実践編です。新しいファッション造形は人と服、人と人、人と街（社会）の関係の中で時代と共に変化成長を繰り返すものであり、それぞれの心と身体を通して受信した実感のある情報を消化吸収し再発信するメディアであると考えます。

## ヒューマンボディデザインの実験展会場

- 神戸ファッション美術館（2003.5.3～5）
- アクシスギャラリー（7.24～27）
- 内蒙古美術館（9.11～16）
- 北京民族文化宮（9.19～23）
- Bologna Fiere Italy CERSAIE 2003  
C/o.Melco（9.30～10.5）



An Experiment of Human Body Design 神戸ファッション美術館 5 F オルビスホール 会場風景

街のイメージを再現した実験的空間を創るための構成要素について（神戸会場の場合）

### 1) 映像・音響

250インチスクリーンに街のイメージ映像を映写。スクリーン前の白いコスチュームのマネキンや会場を横切る見学者にも映像が映り、人と街の情報の相互関係を表現。

### 2) バナー

透明フィルム、ミラーフィルムに街や人のイメージフォトコラージュを出力。映り込みや透明効果により、会場にいる人に街は自分の存在によって成立している事が実感できる。

### 3) 照明

時間を表現するため明暗の変化を繰り返す。

### 4) ミラーボール

流れる時間や行き交う情報をイメージ。

### 5) ワイヤーオブジェ、スチロールブロック

街のイメージのサンプリング

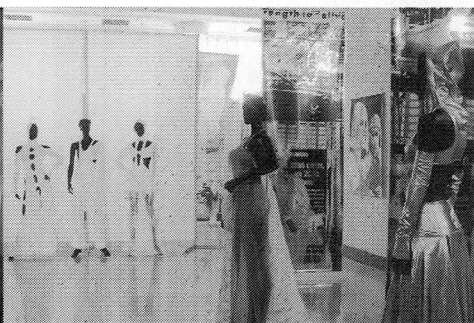
### 6) ヒューマンボディデザイン20人

時代の理想のプロポーションであるマネキンを使用。コスチュームデザインのキーワードは、フィット&ルーズ、見えと隠れ、透明感と光沢感、ドレープとストレッチ、カラーミックスなど。平面上のパターンの水平垂直、肩線や脇線、ダーツといった服作りの常識にとらわれず、3次元のボディのもつ曲面を重視。支えるポイントも肩、胸から主に腰やファニーゾーンに移動させている。

神戸会場での展示は実験や問題の提議であったため、制作はイメージ都市の創造であり、バーチャルシティ、バーチャルボディであったといえます。次のアクシスギャラリーではこれらを課題に、活動する生身の人間にヒューマンボディデザインを行い、それらをビジュアルメディア——カタログ、写真集、映像等——へと展開し、より現実的なデザイン造形へと近づけました。装う人または見る人の視覚を通した触覚（皮膚感覚）の表現をテーマとしています。さらに、中国の2会場での展示（視覚伝達・日本・京都意匠展 VISUAL DESIGN JAPAN KYOTO）ではイメージをヨーロッパから、より実感のもてる日本、北東アジアからの発信へと変化させる第1歩でした。西洋社会では人間を精神と肉体といった二元論として考えますが、日本あるいは東洋では心と身体、時には個と集団をも一緒に捉える面があるようです。以降の制作はこれらの思考の違いを意識しながら個人的な活動だけではなく、学生たちも含め、京都を中心としたテキスタイル産地や伝統工芸の団体とのヒューマンボディデザインをテーマとしたコラボレーションを企画しています。



アクシスギャラリー 会場風景



北京民族文化宮 会場風景 視覚伝達・日本・京都意匠展